

親への恋しさも我慢した

いま子どもたちは

親が離婚した…①

「お父さんが出ていく日、泣かないようにして下を向いて見送りました。その後、玄関に座り込んでずっと泣いていました。不仲なのもわかついたけれど、子どもの関係まで壊さなくていいと思いました」（小

学6年女子）
「母が毎日のように離婚した父の悪口を言うのがつらい」（中学1年女子）
「母の新しい彼氏を受け入れられない。誰にも相談できず、一人で考え込んでしまう」（高校2年女子）

親の離婚や再婚を経験した子どもたちを支援するNPO法人Wink（東京都新宿区）のウェブサイトにある掲示板には、子どもらの悲痛な思いが、途切れることなくつづられていく。「がんばりすぎちゃダメ。悩みを語せる友だちはいますか」「本音を言えない気持ち、わかります。言つたら家族関係が壊れちゃうしね」

Winkの新川明日菜理事長（24）は、一つひとつ丁寧に返信する。「親の離婚を経験した子どもの大半は、親友にはもちろん、同居する家族にも本当の気

持つて隠している」と話す。

東京都出身の新川さんも、離婚家庭で育った。最初の離婚は

0歳の時。その後、母が再婚、離婚、事実婚を繰り返し、成人

するまでの間に3人の「父」と暮らした。「母は子どもより恋愛が大切な人。父だった人も、みんな去つていった。自分の家庭はあつうじないと想い、自己肯定感が低かった」

みんな去つていった。自分の家庭はあつうじないと想い、自己肯定感が低かった」と

13歳のとき、実父が唐突に養育費を支払うようになった。記憶にない実父に興味はなかったが、誕生日の日に支払いを上乗せしてくれたとき、「会ってみたい」と心が動いた。

13歳のとき、実父が唐突に養育費を支払うようになった。記憶にない実父に興味はなかったが、誕生日の日に支払いを上乗せしてくれたとき、「会ってみたい」と心が動いた。

東京都台東区のJR上野駅で待ち合わせ、2人で食事をした。再婚していた実父は、新川さんと別れていた。離婚を謝り、「こんなにいい子に育ててくれて感謝している」と母への想いを口にした。

現在、家庭教師は35人。その中の男の子にかつての自分を重ねさせてくれたとき、「会ってみたかった」と心が動いた。

「Winkの掲示板。親の離婚に悩む子どもたちの書き込みが続く=画像の一部を処理しています



NPO法人Wink
事長の新川明日菜さん

西親の離婚

投稿者:
投稿日時:2011/12/17 15:48:16

中一です。

昨日に離婚するという話をさせられました。
一年前(?)にもそういう話があったのですが
その時は今は亡き祖父の配慮で助かりました。
でもやっぱり駄目だったみたいです。

私は母についていくことにしました。

兄ちゃんはどうするんだろう…

母が兄妹は離すべきじゃないって言ってたので

一緒に来ると思うけど…

どちらにしても不安です。

母は収入が少ないので仕事を見つけると言っていたのですが
どうなるかわからないし…

る」。新鮮で温かい発見だった。大嫌いだった母との関係も、少しずつ改善した。

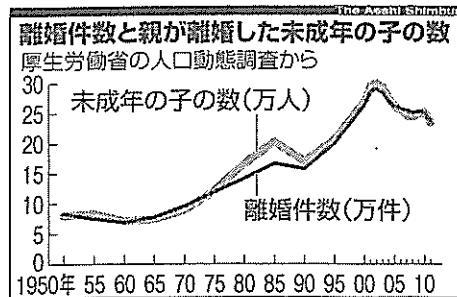
自分と同じように悩む子どもたちの声を聞いてあげたい」

。2010年、Winkの活動の一環として、子どもたちに同じ境遇で育った大学生らを家庭教師として派遣する事業を始めた。離婚や1人親家庭の親への支援はあっても、子どもの支援は少ない。そんな現状を変えたかった。

一人、都内の大学1年加藤涼也さん（19）は、訪問先の小学4年の男の子にかつての自分を重ねている。昨年のクリスマスイブ。「ケーキを買ってやる」と

言うと、「そんなのいらない！」と断られた。やさしさに慣れないため、わがままを言えず、甘え方がわからない男の

教育



強い偏見、心に負担も

厚生労働省の人「動態調査」では、2011年に親が離婚した未成年の子どもは23万5200人。90年代半ばから20万人台が続き、最多だった02年は29万9525人。その後は減少傾向だが、早稲田大学の棚村政行教授（家族法）は「婚姻数も減っている。離婚が減っているという実感はない」と話す。

離婚する家庭の子ども、年に20万人

昨年4月1日、離婚届に「面会交流」と「養育費」について取り決めをしたが否か尋ねる欄が新設された。記入しなくとも離婚はできるが、法務省は「夫婦に協議する機会を与えてられれば」と親たちの意識改革に期待を寄せた。

東京国際大学の小田切紀子教授(臨床心理学)は「日本では離婚家庭への偏見が強く、『わが子は普通じゃない』と心を閉ざす子も多い。親は子の気持ちに最大限の配慮」と訴える。

小田切教授は、米オレゴン州で離婚家庭の支援を研究している。同州では、離婚する親は、子どもに与える影響を学ぶプログラムを受講しなくてはならないといい。「子どもの健健全成長が共通の願いである」とを確認する以外、「子どもの心の負担が減る」と話している。

「親同士のこじかん」や「子供の利益を分けて離婚する」などがである。離婚後の親子関係について十分な話し合いかなされず、子どもが片方の親と断絶するケースも多い。棚村教授は「親同士のこじかん」や「子供の利益を分けて考えなければいけない」と指摘する。

子。そんな姿を見るのがつらかった。

婚記念につくられたオルゴールを見つけた。両親の名前が刻まれた箱をパカッと開けると、流れてきた曲は、中山美穂とWANDSの「世界中の誰よりも」と。互いを思いやる気持ちを歌い上げた愛の歌に、涙が止まらなくなつた。

「我慢しきれりゆつむりはだかいつたんでもある……。わいせつ

離婚家庭の子どもたちを置き去りにされかねない。取材した。（吉田真梨子）

られた母は仕事に忙しく、週間に1回帰ってくる程度。父とは小学1年のときから一度だけ会つたきりで、どうして何をしているのかわからない。

「どうがいたのかな」。祖父母には、たくさんの愛情を注いでもらつた。それでも、「両親が恋しい。友だちと自分の間に距離を感じることが多かつた」。

父に会えれば、きっと幸せに

No.451

いまと 子どもたちは 親が離婚した…[2]

「お父さんに会いたい」
神奈川県に住む中学2年生の女
子(14)はそう願う。

1歳のときには母と別れ、2歳
で何をしているのかわからな

い。会っても何を話せばいいの
かわからない。でも…。「父
を知らないから、自分のことも
わからぬ氣がする。いつまで
も自分に自信が持てず、大人に
なれないようで怖い」

母は未婚のまま自分を生んだ
のだと勝手に思い込んでいた。
離婚の事実を知ったのは小学2
年のとき。学校の授業で、赤ち
やんのこの写真が必要になっ
た。母が出てきた写真には、
生まれたばかりの自分に添い寝
する母と、笑顔でピースサイン
をしている「知らない男の人」
が写っていた。なんだか幸せそ
うに見えた。

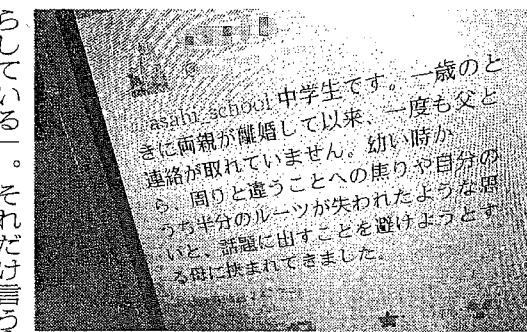
母の外出時をねらい、自宅の
棚やタンスなどをあさった。よ
うやく見つけた母子手帳で、父
の名前を知った。東京の住所が
記されていた。

「お父さんは東京にいる！」
小学4年の授業で「学校から
見えるもの」を写生するよう言
われた。見えるはずのない東京
タワーを描いた。一人で電車を

乗り継ぎ、母子手帳の住所を訪
ねたこともあるが、見つけられ
なかつた。インターネットで氏
名を検索してもみたが、今も所
在はわからない。

寂しさ、悲しき悔しさ。感
情にフタをして「サイボーグの
ように」日々をやり過ごしてき
た。「お父さんに会えれば、幸せ
いんです」。昨年末、母に内
緒で父へのクリスマスプレゼント
の紺色のマフラーを買つた。
いつか会う日のために、机の奥
に大事にしまつてある。

(古田真梨子)



夏月 三 築元 開

2013年(平成25年)1月25日

「お父さん、一緒に帰ろう」

No.452
いま
子どもたちは
親が離婚した… [3]

ノちゃん(4)を汗だくなつて追いかけた。親子のありあれた触れ合いに見えるが、2人が会つたのは4年ぶりだった。カヤノちゃんが生まれてすぐケンジさんと妻のミユキさんは別居した。ミユキさんがカヤノちゃんを育てながら協議を続け、昨年7月、離婚が成立した。離婚の条件として、養育費の支払いとともに、カヤノちゃんとの定期的な面会交流が約束された。

もともと面会交流を希望していたのは、自身も離婚家庭で育ったミユキさんだった。生まれ前から別れた父のことを何も聞けないまま、小学3年のときに母が病気で亡くなつた。「私は何かあつたときには帰る場所がない。自分の親の情報を知つておくのはとても大切なこと」



ケンジさんが作ったおにぎりとミユキさんが作つた卵焼きなどのおかず
20日、東京都内

この日の面会は、古市さんの提案で3時間。遊具で遊び、絵を描いて、父と娘の時間はあつという間に終わつた。

ミユキさんが迎えに来た。抱っこしていたケンジさんがカヤノちゃんを下ろす。カヤノちゃんはミユキさんに手を引かれながら、もう片方の手でケンジさんの手を握つた。「楽しそうにした。古市さんは「子どもを一方だけの所有物にしてはいけない。両親から愛されている実感は、子どもの成長に欠かせない」と話す。

（古田真梨子）

母と2人で生きていく

No.453

いま No.453
子どもたちは
親が離婚した… 4

親が離婚した… 4

福島県が震度6強の揺れで、大きな津波に襲われた2011年3月11日。海から約1・8キロの自宅にいた高校3年のユウキ君(18)は、同居する祖父母の手

をひき、母のミサさん(46)とともに親類の家へ避難した。自家は半壊。親類や同じ学校の生徒が亡くなった。

多くの人が心配して連絡をくれた。でも、離れて暮らす父(54)からは一切の連絡がなかつた。「別に、何とも思わなかつた」。手元に視線を落とし、「父に会いたいと思ったことがない。何もしてくれない人。今後もかかわりたくない」。ミサさんが離婚したのは、ユ

「ユウキ君が1歳のとき。『子供も
を渡せ。養育費は払わない』と
いう夫の怒声を聞きながら、ユ
ウキ君を抱っこして実家に戻っ
てきた。収入はパートで月7万
円ほど。両親と同居しているた
め、生活保護は受け取ることが
できない。貯金を崩しながらギ
リギリの生活を続けてきた。
ユウキ君は小学6年のとき、
仲良しの友人たちと私立中学の
受験勉強を始めたことがある。
だが、すぐにお金がないことに

気がついた。「父に援助を頼んではどうか」と語る親類もいたが、「何を今さらうじ。見返りを求めるやれ、将来の世話をしようと言われたら嫌だ」と断つた。ミサさんに不満を漏らすこともなく、地元の中学校から県立高校に

ミサさんは「私に気を使つて進學した。

療養中だが、進学希望のユウキ君のために、レセプト入力などの在宅ワークを続いている。だが、県立高校の授業料は無償だったが、今後は授業料がかかる。県内のひとり親家庭は、子どもが18歳になるまで親子ともに医療費が無料だが、これも期限が切れる。より厳しい経済状況に陥るのが見えている。

ユウキ君は、どこか吹っ切れたような顔で言った。「母が好き。ここまで育ててくれて、感謝しかない。これからもう2人生きていこうとに変わりないで



享月

日

豪斤

星

2013年(平成25年)1月31日

No.454

子どもたちは 親が離婚した…[5]

父じやない男に怒鳴られて

母119人(29%)を上回った。

千葉県の中学生のヨシト君(15)にとって、それはひとりではない。昨夏、母(43)の交際相手の男性(50)に怒鳴られ、髪をつかまれて庭に引きずり出された。

理由は「掃除をする約束を破ったから」。思い出すと体が震え、涙がこぼれる。「とにかく怖くて……。言葉が出なか

りするたびに「お母さん、人を見た目なさすわ！」と思うが、口には出せない緊張感がある。

「中学生の自分には、この状況をどうする」ともできない」と思つた

トで家族4人で暮らして、みんなで買い物に行ったり、ご飯を食べたり。楽しかったなあ」。妹と「お父さんに会いたいね」と話すようになった。でも、「お母さんはお父さんが好きじ

め勉強どうだ？」。順番に電話と妹しかいなかつた。「元気か?」電話がかかるときも、妹と「父に会いたい」。そう思う

「ふつうの家族をつくるのが夢。お父さんがいて、お母さんがいて、子どもがいる。それ以上は望んでいません」

つい。電話で話せたときは胸がいっぱいになり、父の電話番号や住所を聞き忘れてしまった。妹が聞きとったメールアドレスにメールを送っても、なぜか送信できない。やさしく、控えめな性格だからか、「ぐるることもできない」。

いま、高校受験のまつただ中だ。農業科に進み、早く独立ちしたいと考えている。

(吉田真梨子)



実父へメールを送ろうとするヨシト君。何度も試みても送信できなかった=8日、千葉県内

2013年(平成25年)2月1日

いくらクズでも父は父 子どもたちは

No.455

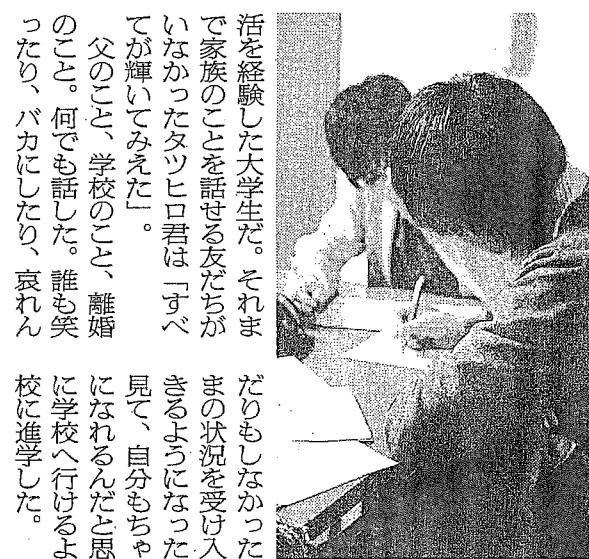
親が離婚した… 6

酒を飲んで怒鳴り、暴れるようになった父。靴をそろえていない、野球が下手だ、食事の仕方が悪い……。常にイライラしていて、「ぶつ殺してやる」とすぐまれた。仕事のストレスがたまっていたのだろうか。自分が要領が悪いのがいけなかつたのだろうか。いろいろ考えてみたけれど、今もきっとかけはよくわからない。

父(47)がおかしくなったのは小学5年のころだった、と大阪府の高校1年生タツヒロ君(15)は振り返る。「それまでは仲が良くて、裕福な家庭だった」という。野球が下手だ、食事の仕方が悪い……。常にイライラしていて、「ぶつ殺してやる」とすぐまれた。仕事のストレスがたまっていたのだろうか。自分が要領が悪いのがいけなかつたのだろうか。いろいろ考えてみたけれど、今もきっとかけはよくわからない。

翌年の冬。母が、1人親家庭の子どもに授業料半額などのサービスがある学習塾を見つけてきた。同府箕面市のNPO法人「あつとすくーる」が運営する「渡塾」。スタッフの多くが両親の離婚や、1人親家庭での生

とした後、3人でアパートで暮らし始めた。「どうして、俺の家は普通じゃないんだ」。精神的に追い詰められ、学校に行けなくなつた。中学1年のとき、離婚が決まった。



「渡塾」で学ぶタツヒロ君
(手前)。離婚家庭や1人親家庭で育った先生たちに勉強を教えてもらう
=1月11日、大阪府箕面市

活を経験した大学生だ。それまで家族のことを話せる友だちがいなかつたタツヒロ君は「すべてが輝いてみえた」。父のこと、学校のこと、離婚のこと。何でも話した。誰も笑うこともあるけど、やっぱり代わりはないんです」

最近、気になるのは母のことだ。1人で働き続けるのは大変だと思う。けれど「絶対に再婚してほしくない」と伝えてあげる。それは、父が好きだからぢやない。「いくらクズでも、父は父。本気で殴ろうかと思つたこともあるけど、やっぱり代わりはないんです」

(古田真梨子)

「家族は互いに支え合って、バランスを取っているもの。急におやじのコマが抜けて、ぐらぐらした」。離婚当初の自分と家族を、そんな風に振り返っている。

2013年(平成25年)2月2日

会う度「ごめんね」しんどいよ

No.456

いま 子どもたちは 親が離婚した… [7]

2004年12月、新潟県。雪の降る日、母(44)が突然、家出した。高校2年のリョウガ君(17)は9歳、妹で小学6年のミウ君(12)は4歳だった。

「仕事に追われ、家を大事にしているなかつた」。父の片山知行さん(41)が必死で行方を捜した。だが、再会したときには母の離婚の意思は固かつた。

親権をめぐつてもめた。実家に頼れることや学校のことでなどを著え、片山さんが育てることになった。「子どもは母親の方がよかつたのかかもしれない」と考へた片山さんが連絡をとり、リョウガ君もミウ君も初めて会つた。リョウガ君もミウ君も

2004年12月、新潟県。雪の降る日、母(44)が突然、家出した。高校2年のリョウガ君(17)は9歳、妹で小学6年のミウ君(12)は4歳だった。



片山さん(中央)と話しながら、リョウガ君(右)は店を手伝い、ミウ君(左)は宿題をする=新潟市

昨春、離婚以来、ほとんど会つていなかつた母との交流が始まった。「会つておいた方がいい」と考へた片山さんが連絡を取り、リョウガ君もミウ君も直接、携帯でやりとりをしていく。「明るい人。いい関係ですよ」とリョウガ君。一方、ミウ君は「お母さんが好きだけど、2人だと何を話せばいいのかわからんない」。会う度に「ごめんね」と言われる。それも、

何となくしんどい。「もう、いいの。今の家族の形が安定しているし、幸せだから」。2人とも、家族4人で暮らすのは大変だと思う。片山さんは「一度、壊れちゃったものは『一度、壊れちゃったもの』に戻すのは大変だと思う」。片山さんが昨夏、JR新潟駅近くにオープンさせた居酒屋で、開店前に3人で過ごす時間が好きだという。リョウガ君も言つ。父と母は合わなかつたんですけど、それに、離婚も1人親も、自分の生活にあんまり関係ないかな。今の生活、結構いいですよ」。(吉田實梨子)

2013年(平成25年)2月3日

いま 子どもたちは

No.457
親が離婚した…⑧

欠陥だらけの家族だけど、幸せ

婚。その後、山田さんと弟(17)が誕生した。

相談できず、「お父さんは単身赴任」とウソもついた。

そのまま、大学生になった。

1年生だった昨年2月、イン

ターンシップ先で、大手前大学

4年の李青さん(23)と出会った。

た。韓国からの留学生で、母

(51)と姉(26)の3人家族。

「貧しくて服も買えなかつた。自分

の運命を恨んだこともある」。

自然に打ち解け、時間を忘れて

互いの家族の話をした。



経験をもとにしたビジネスについて
相談する山田さん(右)と李さん(左)

知っていた。その分、小さな幸
せをたくさん感じた」。幸

NPO法人が主催するビジネス
プランのコンペに参加を決め
た。提案しているのは、休日に
ひとり親家庭の子どもを預かる
事業。山田さんは「子どもを預
け、リフレッシュしてほしい」

返しを…。2人は、大阪市の

「とても幸せだったんですね」と
山田さん。体調の悪い母が無理
をして作ってくれたお弁当。

「すりこい下手なんです。卵が
ぐちゃぐちゃ。でも、めったにな
いことだから最高においしかつ
た」。両親は離婚はしていない
が、今も別居中だ。「欠陥だら
けの家族だけど、みんな互いの

ためには一生懸命だった」。李さ
んも「お父さんもお金も、当た
り前にある」などいらないことを

△ 「親が離婚した…」は今回で
終わり、次回は6月に始めま
す。(古田真梨子)

京都府の同志社大学2年の山
田光瑠さん(20)はステップファ
ミリー(子連れ再婚家庭)で育
つた。前夫と離婚した母(52)
が、姉(28)を連れて父(53)と再

居。3人姉弟は父と母の間を行
ったり来たりし、離ればなれに
暮らすこともあった。姉との関
係がぎくしゃくし、母が褒込み

た。小学3年のとき、父と母が別
れた。韓国からの留学生で、母
(51)と姉(26)の3人家族。

似た境遇だからこそ、微妙な
心理がわかり合えた。

「つらいときもあつたけど、
親の心のゆとりが、子どもの笑

顔につながります」と話す。